

論壇

沖繩少年会館（久茂地公民館）は、沖繩教職員会長であられた屋良朝苗さんを会長とする沖繩子どもを守る会が、戦後アメリカ軍政下という特殊事情もあって、青少年問題の対策が叫ばれる中、昭和39年子どもたちのために開かれた施設として研



宮里 榮一

修、訓練、教育相談、話し合い娯楽の場を設けて心のよりどころとし、子どもたちの宿泊施設・本土青少年との交流の場を設けるために建設されました。地元沖繩ではPTA連合会、婦人連合会、小学校長会、中学校長会、高等学校校長協会、教育長会、さらに琉球政府と全市町村

の協力を得て、地元の態勢を整え、屋良会長は昭和38年から8回上京し、本土側に協力を要請しました。本土では南方同胞援護会が窓口となり、日本自動車振興会、全国連合小学校長会、日本中学校長会、全国高等学校校長協会、日本私立中学高等学

善意で造られた少年会館

文化的価値残る公共施設

校連合会、全国の教職員、児童生徒、多数の篤志家の方々、東京在任の郷土出身先輩の深いご理解と協力のおかげで、募金を募り、会館敷地198坪余を購入し、延べ床面積650坪余、1億6千万円余の巨費を投じて、会館を建設することができました。落成式では当時の皇太

子、同妃殿下から金一封と辞書、スライドなどが贈られました。同建物は当初、沖繩子どもを守る会と南方同胞援護会は単に鉄筋コンクリート5階建てエレベーター付きという要望でしたが、設計の構想を練る中で、児童科学展示室、鉄道模型、プラ

ネタリウム、天体望遠鏡等の夢が膨らみ、上京して渋谷の五島プラネタリウム、渋谷児童館、上野の東京文化会館の諸施設を見学して参考に致しました。東京文化会館は、建設20年を経て外壁の打ちっ放しコンクリートの痛みがひどく、昭和57年大規模な修繕を経て、今日でも

立派に活用されています。建物は維持管理さえよくすれば長年使用できるもので、ヨーロッパの建物が良い例です。用途が変われば、内部の様様替えだけで何百年も変わりなく活用されます。本土における木造の寺院建築もしかりです。

少年会館の取り壊しが差し迫った今日、全国の青少年や各種団体へのあいさつもなく、善意の募金でできたこの施設を、またこの施設を利用して生かしたという、新沖繩子どもを守る会への提案を拒む中、恐らく安里に設けた公民館の新設に伴い、二重の施設と見放していると思いますが、戦後に残された公共的施設を文化的な価値を見いださずそのままに葬るのは誠に残念に思います。（1級建築士、那覇市、87歳）